

## 水稲新品種「アスカミノリ」について

西山 壽・内山田博士・\*八木忠之・\*新村善弘・\*轟 篤・\*\*小八重雅裕  
 \*\*黒木雄幸・\*\*本部裕朗・(故)衛藤信男  
 (九州農業試験場・\*宮崎県総合農業試験場・\*\*宮崎県農政水産部)

Hisashi NISHIYAMA, Hiroshi UCHIYAMADA, Tadayuki YAGI, Yoshihiro SHIMURA, Atsushi TODOROKI, Masahiro KOBAE, Yukou KUROGI, Hiroaki HONBU and the late Nobuo ETO : A New Rice Cultivar "Asukaminori"

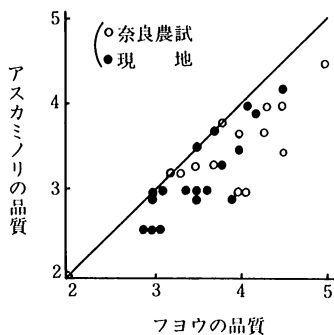
水稲新品種「アスカミノリ(飛鳥稔)」は1986年から奈良県において奨励品種に採用され普及に移された。ここに本品種の育成経過ならびに特性概要を報告し、普及の参考に供する。本品種の育成に関し、種々のご高配にあずかった各機関各位に深く謝意を表する。

## 1. 来歴および育成経過

本品種は、1972年に宮崎県総合農業試験場(農林水産省指定水稲育種試験地)において、日本晴を母、南海56号を父として人工交配を行い、1973年F<sub>4</sub>で穂別系統として個体選抜を行い、以後系統育種法により育成されたものである。1978年F<sub>9</sub>より南海73号の系統名で関係府県に配布して、地方的適否を検討してきたもので、1986年6月「水稲農林281号」として登録され、「アスカミノリ」と命名された。

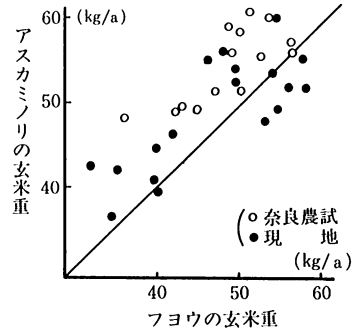
## 2. 特性の概要

1) 形態的特性 アスカミノリは、フヨウに比べ稈長は同程度、穂長はやや長く、穂数は少ない中稈の中間型である。止葉はやや立ち、草姿は良い。粒着密度はフヨウ程度の中で、短芒がまれにあり、稃先色は黄色、脱粒性は難である。玄米の形状・大小は中形・やや小である。玄米品質は、腹白・心白の発生が少なく、光沢大で、フヨウより良く、コガネマサリ並の良質である(第1図)。搗精歩留はフヨウ並の普通、食味はフヨウ・コガネマサリ並に良い。



第1図 アスカミノリとフヨウの品質比較  
(奈良県 1979~1985年)

2) 生態的特性 出穂期・成熟期ともフヨウより2~3日早い中生の中に属する稈種である。耐倒伏性はフヨウに勝る中で、収量性は、フヨウ・コガネマサリに勝る多収である(第2図)。いもち病抵抗性遺伝子型はPi-aと推定され、圃場抵抗性は、葉いもちに中、穂いもちにやや強である。白葉枯病抵抗性はやや弱である。



第2図 アスカミノリとフヨウの玄米重比較  
(奈良県 1979~1985年)

第1表 アスカミノリの特長概要

| 形質                    |      | 品種名       |           |
|-----------------------|------|-----------|-----------|
|                       |      | アスカミノリ    | フヨウ       |
| 早草                    | 晩性型  | 中生<br>中間型 | 中生<br>穂数型 |
| 出穂期(月・日)              |      | 8.28      | 8.30      |
| 成熟期(月・日)              |      | 10.21     | 10.24     |
| 稈長(cm)                |      | 86        | 87        |
| 穂長(cm)                |      | 21.0      | 20.3      |
| 穂数(本/m <sup>2</sup> ) |      | 357       | 374       |
| 芒の多少・長短               |      | 稀・短       | 稀・中       |
| 稃先色                   |      | 黄白        | 黄白        |
| 脱粒性                   |      | 難         | 難         |
| 耐倒伏性                  |      | 中         | やや弱       |
| 耐病性                   | 葉いもち | 中         | やや強       |
|                       | 穂いもち | やや強       | 中         |
|                       | 白葉枯病 | やや弱       | 中         |
|                       | 縞葉枯病 | 罹病性       | 罹病性       |
| 玄米重(kg/a)             |      | 55.1      | 50.0      |
| 玄米千粒重(g)              |      | 22.3      | 21.6      |
| 玄米品質                  |      | 上下(3.4)   | 中上(3.8)   |
| 食味                    |      | 上下        | 上下        |

注) 奈良県における1979~'85年の標準栽培

## 3. 奨励品種採用理由

奈良県のフヨウは、平坦部の基幹品種として、45%以上の作付率をもっている。しかし、小粒の上、品質に問題があり、穂いもちが年により発生し、耐倒伏性不十分である。アスカミノリは、白葉枯病に弱いのが、その他の特性がフヨウに比べ優れており、普及が見込まれる。

## 4. 栽培上の注意

フヨウより耐倒伏性は勝るが、極端な多肥栽培は避ける。また、白葉枯病抵抗性が劣るので、常発地帯での作付は避ける。